



# **ASFALIS TransServer**

## **バッチ機能マニュアル**

2020年 8月

株式会社エリジョン

# 目次

1. バッチ機能	1
1.1. 概要	1
1.2. システム要件	1
2. 導入方法	2
2.1. バッチ機能の設定ファイルの編集	2
2.2. 外部ファイルサーバの登録	3
2.3. バッチファイルパラメータのサーバ設定	3
3. 各プログラムの実行方法	5
3.1. JobState	5
3.2. JobLotRegister	9
3.3. JobEntry	12
3.4. JobStop	18
3.5. JobDownload	20
3.6. コマンド接続	23
4. バッチ入力用XMLファイル形式	25
4.1. コンポーネントパラメータ型XMLファイル	25
4.2. オペレーション登録XMLファイル	26
4.3. ジョブ投入XMLファイル	28
5. 処理結果コード一覧	30
6. サンプル	35
6.1. オペレーション登録XMLファイル	35
6.2. ジョブ投入XMLファイル	35

# 1. バッチ機能

## 1.1. 概要

ASFALIS TransServerでは、画面からオペレーションを行う以外に、特定のプログラムを起動することでジョブの登録やジョブの状態を取得する機能（以下、バッチ機能）を提供しています。

バッチ機能は以下のプログラムから構成されています。

JobLotRegister	オペレーションを登録する。
JobEntry	ジョブを投入する。
JobState	ジョブのステータスを取得する。
JobDownload	ジョブの変換結果ファイルをダウンロードする。
JobStop	ジョブを強制終了する。

また複数のバッチ機能を接続して実行する「コマンド接続」という機能があります。コマンド接続を行うと、あるバッチ機能の出力結果を別のバッチ機能の入力として利用することができます。

## 1.2. システム要件

バッチ機能を使用するには .NET Framework 4 が必要です。導入前に.NET Framework 4をインストールしてください。

また、バッチ機能を使用するには以下のライセンスが必要です。

- ASF-API/S

## 2. 導入方法

バッチ機能を使用するクライアントコンピュータの任意のフォルダに、ASFALIS TransServerのインストールに付属するtoolsフォルダをコピーし、以下の手順に従って設定を行ってください。

### 2.1. バッチ機能の設定ファイルの編集

バッチ機能の設定ファイル(tools\job.ini)を編集します。設定ファイルには以下の表のパラメータがあります。OUTDIR、KEEPDIR、UPDIR、SAVEDIR、SERVER\_URLを設定して下さい。

Key	説明
OUTDIR	処理結果コード等をファイル出力する場合の出力先パスを設定します。 この変数値は、各コマンド実行時のオプションにコマンド投入IDを指定した場合にのみ使用されます。 例: C:\batch\outdir
KEEPDIR	変換対象のファイルを含むディレクトリを配置するパスを設定します。 例: C:\batch\keepdir この変数値は、コマンド実行時のオプションにコマンド投入IDを指定した場合にのみ使用されます。KEEPDIRに指定したディレクトリの下にコマンド投入IDと同じ名称のディレクトリを作成し、その下に変換対象ファイルを配置してください。
UPDIR	バッチを実行するコンピュータと ASFALIS TransServer との間で、バッチ機能でのファイルアップロード時に使用する共有フォルダの参照パスを設定します。 ASFALIS TransServerに本項目で指定したディレクトリをアドレスとする外部ファイルサーバ(*1)を登録し、サーバ設定 batch.upload.file_server に上記外部ファイルサーバのIDを設定します。 例: \\ats_batch_share\upload
DOWNDIR	バッチを実行するコンピュータと ASFALIS TransServer との間で、バッチ実行コンピュータへのファイルダウンロードに使用する共有フォルダの参照パスを設定します。 ¥¥[サーバ名]\[共有ディレクトリ名] の形式で設定します。 ASFALIS TransServer に本項目で指定したフォルダをアドレスとする外部ファイルサーバ(*1)を登録し、サーバ設定 batch.download.file_server に上記外部ファイルサーバのIDを設定します。 例: \\ats_batch_share\download
SAVEDIR	変換後ファイルダウンロード時のダウンロードファイル保存先を設定します。 この値は、変換後ファイルダウンロードコマンド (JobDownload) を [-D ダウンロードパス] オプションなしで実行する場合にのみ使用されます。 例: C:\batch\savedir
SERVER_URL	ASFALIS TransServerのURLを指定します。 例: <a href="http://servername:3000/">http://servername:3000/</a>
TIMEZONE	各コマンドAPIの -Z オプション省略時のデフォルト値について、下記いずれかの値を指定します。 UTC: 協定世界時 DEFAULT: コンピュータのタイムゾーン この項目を省略した場合、DEFAULTが指定されたとして扱われます。
TIMEOUT	ASFALIS TransServerとの通信タイムアウト待ち時間を秒で指定します。 省略した場合、デフォルトのタイムアウトは60秒です。
SSL_VERIFY	0を指定した場合、信頼されないサーバ証明書によるSSL通信を許可します。
DEBUG	1を指定した場合、デバッグログをファイルに出力します。デバッグログの出力先は(実行ファイル配置フォルダ)\logs です。

### \*1 ファイルのアップロード・ダウンロードとWindowsファイル共有について

バッチ機能ではASFALIS TransServerとのファイルのアップロード、ダウンロードにWindowsファイル共有を利用します。バッチ機能共通の設定ファイル内のUPDIR, DOWNDIRに指定したディレクトリを一時的に経由してファイルを受信、送信します。バッチ機能を使用するコンピュータからもASFALIS TransServer導入コンピュータのどちらからも認証の必要ない共有ディレクトリを指定して下さい。UPDIR、DOWNDIRに指定したディレクトリは一時的に経由するだけで実行後にファイルは削除されます。バッチ機能で利用する共有ディレクトリはファイルを保管するなどの他の用途に使用しないで下さい。

バッチ機能の設定ファイルをバッチ機能のプログラム本体が配置されているディレクトリ以外に置く場合は、環境変数JOB\_INI\_PATHを設定して下さい。各バッチ機能実行時に、下記の順で設定ファイルが検索されます。

- 環境変数 JOB\_INI\_PATH に指定されているファイルパス
- バッチ機能のプログラム本体が配置されているディレクトリのjob.ini

## 2.2. 外部ファイルサーバの登録

1. ASFALIS TransServerにログインし、[管理者機能]-[外部ファイルサーバ管理]を選択します。バッチ機能の設定ファイルで指定したUPDIR、DOWNDIRをアドレスとする外部ファイルサーバを登録します。
2. 登録後、外部ファイルサーバIDを確認しておきます。[管理者機能]-[外部ファイルサーバ管理]から確認できます。このIDは次項目の「[2.3, “バッチファイルパラメータのサーバ設定”](#)」で使用します。

## 2.3. バッチファイルパラメータのサーバ設定

ASFALIS TransServerの[管理者機能]-[サーバ設定]を選択し、以下のパラメータを設定して下さい。

- batch.client.address  
バッチ機能を実行するコンピュータのIPアドレスを設定します。
- batch.download.file\_server  
「[2.2, “外部ファイルサーバの登録”](#)」の手順2で確認した、バッチ機能でのファイルダウンロードに使用する外部ファイルサーバのIDを指定します。
- batch.upload.file\_server  
「[2.2, “外部ファイルサーバの登録”](#)」の手順2で確認した、バッチ機能でのアップロードに使用する外部ファイルサーバのIDを指定します。
- batch.jobstate.max\_fetch\_size  
JobStateバッチが実行された時に返却するジョブ数の上限を設定します。

サーバ設定			
		← 戻る	batch <input type="text"/>
		表示件数	10 <input type="text"/>
設定名	説明	設定例	値
batch.client.address	TransServerのバッチ機能を実行するコンピュータのIPv4アドレスを指定します。	127.0.0.1	 192.168.12.60
batch.jobstate.max_fetch_size	JobState/バッチが実行された時に返却するジョブ数の上限を規定します。	50	 50
batch.download.file_server	バッチへのファイルダウンロードに使用するWindowsファイルサーバのIDを指定します。		 1
batch.upload.file_server	バッチからのファイルアップロードに使用するWindowsファイルサーバのIDを指定します。		 2

以上でバッチ機能の設定は終了です。各プログラムの実行方法は次章「[3, 各プログラムの実行方法](#)」をご参照ください。

## 3. 各プログラムの実行方法

### 3.1. JobState

ジョブのステータスを取得します。以下のようにバッチファイルを設定し実行します。

- （例）

JobState.exe -U ログイン名 -W パスワード [-J ジョブID] [-Z タイムゾーン] -O CRT

JobState.exe -U ログイン名 -W パスワード [-J ジョブID] [-Z タイムゾーン] [-O FILE] -P ファイルパス

- 入力オプション

修飾子	オプション名	説明	備考
-U	ログイン名	ログイン名を指定する。	必須
-W	ログインパスワード	ログインパスワードを指定する。	必須
-J	ジョブID	ステータスを取得する対象のジョブID (ASFALIS TransServer の DB に登録されている ID) を指定する。	省略した場合、ログインユーザが登録したジョブの最新 N 件の情報を取得する。(N は ASFALIS TransServer 側で規定)
-Z	タイムゾーン	ジョブの登録日時を指定タイムゾーンに変換して出力する。 UTC: 協定世界時 DEFAULT: コマンド実行コンピュータのタイムゾーン	省略した場合は ini ファイルの TIMEZONE 設定値として扱われる。
-O	出力形式	処理結果の出力先を指定する。 CRT: 標準出力 FILE: 処理結果ファイル出力パスの指定に従う	省略した場合、FILE として扱われる。
-P	処理結果ファイル出力パス	処理結果ファイルの出力パスを指定する。 指定パスがディレクトリの場合、指定パス\StateLog.outを出力ファイルとする。 指定パスがファイルの場合、指定パスをそのまま出力ファイルとする。	-I と併用不可 -O を省略、または -O に FILE を指定した場合、-I とどちらかが必須
-I	コマンド投入ID	本コマンドを実行する外部プログラムから渡される任意の識別子。	-P と併用不可 -O を省略、または -O に FILE を指定した場合、-P とどちらかが必須
-i	コマンド識別ID	本オプションを指定した場合、-NEXTでコマンドを接続する際、本オプションの指定値で修飾された置換変数だけが置換対象となる。	「3.6, “コマンド接続”」参照

- 出力形式

1行目に処理結果コードと、正常終了の場合取得したジョブ数がカンマ区切りで出力されます。2行目以降は、1行につき1つのジョブの情報がタブ区切りで出力されます。（以降、本ドキュメントではタブを△で表します。）

（例）

```
${処理結果コード},${ジョブ数}  
${ジョブID}△${登録日時}△${入力ファイル名}△${ジョブステータスコード}  
${ジョブID}△${登録日時}△${入力ファイル名}△${ジョブステータスコード}  
...  
${ジョブID}△${登録日時}△${入力ファイル名}△${ジョブステータスコード}
```



- 出力項目

項目名	形式	説明	コマンド接続時の置換変数名
処理結果コード	9999	処理結果コード一覧を参照。	ResultCode
ジョブ数	-	取得したジョブ数	Jobs[size]
ジョブID	99..9	ジョブのID	Jobs[n][id]
登録日時	yyyy-MM-dd HH:mm:ss	ジョブの登録日時を、オプションで指定されたタイムゾーンに変換して出力する。	Jobs[n][created_at]
入力ファイル名	-	入力ファイルのトップファイル名を出力する。 入力ファイルを受け取らないシナリオから作成されたジョブの場合には本項目は空文字になる。(したがって、前後のタブが連続する)	Jobs[n][filename]
ジョブステータスコード	9999	ジョブのステータスコードを出力する。 ステータスコード一覧を参照。	Jobs[n][status]

n は n+1 番目のジョブを参照するよう整数を指定します。

(例)

```
1番目のジョブのID : Jobs[0][id]
2番目のジョブのID : Jobs[1][id]
...
n+1番目のジョブのID: Jobs[n][id]
```

- ステータスコード一覧

コード	ステータス
0000	未処理
0002	処理中
0003	異常終了
0004	正常終了
0006	強制終了

- コマンド接続条件

処理結果コードが「コマンド正常終了」の他、「取得件数上限超過」の場合も後続コマンドを実行します。

## 3.2. JobLotRegister

オペレーションを登録します。以下のようにバッチファイルを設定し実行します。

- (例)

```
JobLotRegister.exe -U ログイン名 -W パスワード -T 業務種別ID -N オペレーション名
```

- 入力オプション

修飾子	オプション名	説明	備考
-U	ログイン名	ログイン名を指定する。	必須
-W	ログインパスワード	ログインパスワードを指定する。	必須
-X	オペレーション登録XMLファイル	オペレーション登録内容を記述したXMLファイルへのパスを指定する。	省略時、-T および -N が必須
-T	業務種別ID	業務種別のIDを指定する。	-Xと同時に指定した時、本設定が有効になる。
-N	オペレーション名	オペレーションの名前を指定する。	-Xと同時に指定した時、本設定が有効になる。
-A	オペレーション識別名	オペレーションの識別名を指定する。 サーバ設定 system.use_job_lots_unique_alias が TRUE のとき設定可能	-Xと同時に指定した時、本設定が有効になる。 -Xで指定したファイル内で設定するオペレーション識別名および本オプションを省略した場合にはオペレーション識別名は設定されない。
-a	オペレーション属性設定	オペレーション属性の設定値を指定する。 -a オペレーション属性定義キー名 値 型: ■型: file: ファイル型パラメータ date: 日付型 YYYY-MM-DD hh:mm:ss 形式で指定 datetime: 日時型 YYYY-MM-DD hh:mm:ss 形式で指定 password: パスワード型 *: その他 ■値: ファイル型の場合、アップロード対象のファイルパスを指定する。 date/datetime型の場合、指定された値を-Zオプションで指定されたタイムゾーンとして変換する。 ただし、値にタイムゾーン指定子Zがあらかじめ指定されている場合は変換を行わない。	-Xと同時に指定した時、本設定が有効になる。  -Xで指定したファイル内で設定するオペレーション属性設定および本オプションを省略した場合、オペレーション属性定義に設定されたデフォルト値が使用される。 (デフォルト値が設定されておらず、属性に必須制約が設定されている場合、エラーになる)

修飾子	オプション名	説明	備考
-g	権限設定	オペレーションへの権限設定を指定する。 -g 識別種別 識別情報 権限コード ■識別種別: u: ユーザ g: グループ sg: システムグループ ■識別情報: 識別種別がuの場合: ユーザのログイン名 識別種別がgの場合: グループのID 識別種別がsgの場合: グループの識別名 ■識別コード: 1: Read 2: Download 3: Edit/Delete	-Xと同時に指定した時、本設定が有効になる。  -Xで指定したファイル内で設定する権限設定および本オプションを省略した場合、業務種別の権限設定が登録されるオペレーションに引き継がれる。
-Z	タイムゾーン	日付/日時の入力項目に対するタイムゾーンを指定する。 UTC: 協定世界時 DEFAULT: コマンド実行コンピュータのOSのタイムゾーン	-Xで指定したファイル内、および-aに指定した日付型/日時型属性の値にタイムゾーン識別子が設定されていない場合、本オプションのタイムゾーンとして処理される。
-O	出力形式	処理結果の出力先を指定する。 CRT: 標準出力 FILE: 処理結果ファイル出力パスの指定に従う	省略した場合、FILEとして扱われる。
-P	処理結果ファイル出力パス	処理結果ファイルの出力パスを指定する。指定パスがディレクトリの場合、指定パス \RegisterLog.out を出力ファイルとする。 指定パスがファイルの場合、指定パスをそのまま出力ファイルとする。	-Iと併用不可 -Oを省略、または-OにFILEを指定した場合、-Iとどちらかが必須
-I	コマンド投入ID	本コマンドを実行する外部プログラムから渡される任意の識別子。	-Pと併用不可 -Oを省略、または-OにFILEを指定した場合、-Pとどちらかが必須
-i	コマンド識別ID	本オプションを指定した場合、-NEXTでコマンドを接続する際、本オプションの指定値で修飾された置換変数だけが置換対象となる。	「3.6, “コマンド接続”」参照

- 出力形式

処理結果コードと、正常終了した場合は登録されたオペレーションのオペレーションIDが出力されます。

(例)

```
${処理結果コード},${オペレーションID}
```

## • 出力項目

項目名	形式	説明	コマンド接続時の置換変数名
処理結果コード	9999	処理結果コード一覧を参照	ResultCode
オペレーションID	#####9	登録されたオペレーションのID	JobLot[id]
オペレーション識別名	-	登録されたオペレーションの識別名	JobLot[unique_alias]

### 3.3. JobEntry

ジョブの投入を行います。以下のようにバッチファイルを設定し実行します。

- (例)  
ローカルディスク上のファイルを指定する場合

```
JobEntry.exe -U ログイン名 -W パスワード -L オペレーションID -S シナリオID -F
投入ファイル名 [-T 変換タイプ]
```

Windows共有フォルダ上のファイルを指定する場合

```
JobEntry.exe -U ログイン名 -W パスワード -L オペレーションID -S シナリオID -V
ファイルサーバID -R ファイルサーバディレクトリ -F 投入ファイル名 [-T 変換タイプ]
```

- 入力オプション

修飾子	オプション名	説明	備考
-U	ログイン名	ログイン名を指定する。	必須
-W	ログインパスワード	ログインパスワードを指定する。	必須
-X	ジョブ投入XMLファイル	ジョブの投入内容を記述したXMLファイルへのパスを指定する。	*1
-L	オペレーションID	ジョブの投入先オペレーションを指定する。	-Xで指定したファイル中の当該項目と本オプションを両方指定した時、本オプションが有効になる。 (*1)
-J	ジョブID	既存のジョブで利用したシナリオの設定を利用する場合、そのジョブを指定する。	-Xで指定したファイル中の当該項目と本オプションを両方指定した時、本オプションが有効になる。 (*1)
-S	シナリオID	変換に使用するシナリオのIDを指定する。	-Xで指定したファイル中の当該項目と本オプションを両方指定した時、本オプションが有効になる。 (*1)

修飾子	オプション名	説明	備考
-p	パラメータ設定	<p>特定のコンポーネントの、特定のパラメータの値を指定する。 -p パラメータ識別情報 値 パラメータ型</p> <p>パラメータ識別情報: コンポーネントの場合、「コンポーネント識別名.パラメータキー名」 サブコンポーネントの場合、「コンポーネント識別名.サブコンポーネント識別名.パラメータキー名」</p> <p>複数値パラメータの場合: -p パラメータ識別情報 値 型 -p パラメータ識別情報 値 型 ...</p> <p>パラメータ型: file: ファイル型パラメータ password: パスワード型パラメータ user: ユーザ型パラメータ *: その他</p>	<p>-X で指定したファイル中の当該項目と本オプションを両方指定した時、本オプションが有効になる。</p> <p>パスワード型パラメータを指定した場合、ASFALIS TransServer の操作ログおよびバッチのデバッグログに値が出力される際、「*****」にマスクされる。 (例) -p component1.password "password" password  -p component1.multifile C:\test\file1.txt file  -p simplify.CANVASVersion 1 *  -p mail.to_by_user admin user -p mail.to_by_user user1 user</p>
-D	夜間フラグ	0: 指定なし / 1: 夜間処理 省略時は0: 指定なしとして扱われる。	-X で指定したファイル中の当該項目と本オプションを両方指定した時、本オプションが有効になる。
-M	メモ	ジョブのメモを指定する。(最大5000文字) 省略時は空白となる。	-X で指定したファイル中の当該項目と本オプションを両方指定した時、本オプションが有効になる。
-Y	ジョブ優先度	ジョブの優先度を指定する。 1: 低 / 2: 中 / 3: 高 / 4: 最高 省略時は1: 低として扱われる。	-X で指定したファイル中の当該項目と本オプションを両方指定した時、本オプションが有効になる。 投入先オペレーションに設定可能なジョブ優先度と入力値の最小値をジョブ優先度とする。
-V	ファイルサーバID	Windows 共有フォルダ上、またはFTPサーバ上のファイルを指定する場合、対象のファイルサーバの ASFALIS TransServer に登録された ID を指定する。	ローカルディスク上のファイルを使用する場合は、本オプションを指定しない。 本オプションとともに zip ファイルを入力ファイルとして指定することはできない。

修飾子	オプション名	説明	備考
-R	ファイルサーバディレクトリ	<p>ファイルサーバIDを指定したとき、投入ファイルが配置されているフォルダまでの相対パスを指定する。</p> <p>投入ファイルが基準となるフォルダ（FTPサーバの場合、ASFALIS TransServerに登録されたFTPユーザのホームディレクトリ、Windows共有フォルダの場合、アドレスにUNCパスで指定したフォルダ）直下に配置されている場合は、本オプションを省略可能。（明示的に-Rにピリオドを指定した場合（-R.）と同等）</p>	ローカルディスク上のファイルを使用する場合は、本オプションを指定しない。
-F	投入ファイル名	<p>投入ファイルをフルパスで指定する。半角スペースを含むパスを指定する場合は必ず""（ダブルクォート）で囲む。複数回指定可能。</p> <p>コマンド投入ID[-I]を指定する場合はファイル名称のみを指定する。この場合、job.iniファイルで設定したKEEPDIRの下にコマンド投入IDと同じ名称のフォルダを作成して、その下に投入するファイルを配置する。</p> <p>投入ファイル指定方法が0: Windows共有フォルダまたは1: FTPの場合、当該ファイルサーバの入力ファイル用ルートフォルダからの相対パスで指定する。</p> <p>ファイルサーバIDを指定して、変換タイプを複数ファイル形式にした時、入力モデルを構成するファイルを本オプションで1つずつ指定する。トップアセンブリにするファイルを指定する場合、top:ファイルパスと指定する。*2</p>	<p>（例） -F top:"トップファイル" -F "構成ファイル1" -F "構成ファイル2"</p> <p>2入力以上のシナリオの場合は本オプションを指定せず-fで指定する。</p>
-f	投入ファイル名	<p>複数入力のシナリオの入力ファイルを指定する際、入力ファイルそれぞれについて-f(コンポーネントインスタンス名).(入力パラメータ名)(投入ファイルへのパス)と指定する。</p> <p>コンポーネントインスタンス名は、シナリオ編集やジョブ詳細ページにて、薄い灰色の文字で確認できる識別名を意味する。</p> <p>入力パラメータ名は、投入するコンポーネントの入力パラメータのうち、IO TypeがinであるKeyを意味する。</p> <p>投入ファイルの記述方法は、-Fと同様。</p>	<p>1入力のシナリオの場合は本オプションを指定せず、-Fで指定する。</p> <p>（例） -f geomdiff.sourcefile "投入ファイル1" -f geomdiff.targetfile "投入ファイル2"</p>
-T	変換タイプ	<p>0=単一ファイル形式/ 1=複数ファイル形式 *2</p>	<p>-Xで指定したファイル中の当該項目と本オプションを両方指定した時、本オプションが有効になる。</p> <p>省略した場合、0:単一ファイル形式として扱われる。</p> <p>単一ファイル形式の場合、本オプション指定は無視される(常に0として扱われる)</p>



修飾子	オプション名	説明	備考
-O	出力形式	処理結果の出力先を指定する。 CRT: 標準出力 FILE: 処理結果ファイル出力パスの指定に従う	省略した場合、FILE として扱われる。
-P	処理結果ファイル出力パス	処理結果ファイルの出力パスを指定する。 指定パスがディレクトリの場合、指定パス\EntryLog.outを出力ファイルとする。 指定パスがファイルの場合、指定パスをそのまま出力ファイルとする。	-I と併用不可 -O を省略、または -O に FILE を指定した場合、-I とどちらかが必須
-I	コマンド投入ID	本コマンドを実行する外部プログラムから渡される任意の識別子。	-P と併用不可 -O を省略、または -O に FILE を指定した場合、-P とどちらかが必須
-i	コマンド識別ID	本オプションを指定した場合、-NEXT でコマンドを接続する際に、本オプションの指定値で修飾された置換変数だけが置換対象となる。	「3.6, “コマンド接続”」参照

\*1: オペレーションIDとシナリオID、またはオペレーションIDとジョブIDの組は-Xで指定したXMLファイル中もしくは各オプションによる指定が必須です。

\*2: NX I-deasの.mf1/.mf2 形式の場合、.mf1をトップファイルとして複数ファイル形式で指定する。

具体例を以下に示します。

- ・ IDが4のシナリオを用いて1のオペレーションに絶対パスでモデルを指定して投入する場合

```
JobEntry.exe -U admin -W admin -L 1 -S 4 -F \\models\enf\sample.enf
```

- ・ IDが12のジョブで使用したシナリオを用い、ID13の外部ファイルサーバ直下に置いてあるモデルを投入する場合

```
JobEntry.exe -U admin -W admin -L 1 -J 12 -V 13 -F sample.enf
```

- ・ IDが12のジョブで使用したシナリオを用い、ID13の外部ファイルサーバの enfフォルダ以下に置いてあるモデルを投入する場合

```
JobEntry.exe -U admin -W admin -L 1 -J 12 -V 13 -R enf -F sample.enf
```

- ・ 形状比較から始まるシナリオでジョブを投入する場合

```
JobEntry.exe -U admin -W admin -L 1 -S 7 -f geomdiff.sourcefile
\\models\enf\sample.enf -f geomdiff.targetfile \\models\enf\sample2.enf
```

- CATIA V5の2つのファイルを入力とするシナリオでジョブを投入する場合

```
JobEntry.exe -U admin -W admin -L 1 -S 13 -f catiav52enf.inputfile
"\\models\CATIAV5\sample1.CATPart" -f catiav52enf2.inputfile
"\\models\CATIAV5\sample2.CATPart"
```

- zip内のファイルをパートとして個別に変換する場合

```
JobEntry.exe -U admin -W admin -L 1 -S 4 -F \\models\CATIAV5\sample.zip -T 0
```

- zip内のファイルをアセンブリとして変換する場合

```
JobEntry.exe -U admin -W admin -L 1 -S 4 -F \\models\CATIAV5\sample.zip -T 1
```

- ID 13の外部ファイルサーバ上のアセンブリモデルを投入する場合

```
JobEntry.exe -U admin -W admin -L 1 -S 4 -V 13 -F top:TopAssembly.CATProduct
-F SubAssembly.CATProduct -F Part.CATPart
```

- JobEntry.exe と同じディレクトリ内に存在するsample.xmlを用いてジョブを投入する場合

```
JobEntry.exe -U admin -W admin -X sample.xml
```

## • 出力形式

1行目に処理結果コードと、処理結果コードが正常終了の場合はカンマ区切りでジョブ数が出力されます。2行目以降は、登録されたジョブのジョブIDとジョブ識別名が、タブ区切りで、1行につき1ジョブずつ出力されます。

(例)

正常終了の場合

```
${処理結果コード},${ジョブ数}
${ジョブID}△${ジョブ識別名}
${ジョブID}△${ジョブ識別名}
...
${ジョブID}△${ジョブ識別名}
```

## 異常終了の場合

```
${処理結果コード},
```

## • 出力項目

項目名	形式	説明	コマンド接続時の置換変数名
処理結果コード	9999	処理結果コード一覧を参照	ResultCode
ジョブ数	99…9	登録されたジョブの数	Jobs[size]
ジョブID	99..9	ジョブのID	Jobs[n][id]
ジョブ識別名	-	ジョブの識別名	Jobs[n][unique_alias]

nはn+1番目のジョブを参照するよう整数を指定します。

(例)

```
1番目のジョブのID : Jobs[0][id]
2番目のジョブのID : Jobs[1][id]
...
n+1番目のジョブのID: Jobs[n][id]
```

## 3.4. JobStop

ジョブを強制終了します。以下のようにバッチファイルを設定し実行します。

- (例)

```
JobStop.exe -U ログイン名 -W パスワード -J ジョブID -O CRT
JobStop.exe -U ログイン名 -W パスワード -J ジョブID [-O FILE] -P
ディレクトリパス
```

- 入力オプション

修飾子	オプション名	説明	省略
-U	ログイン名	ログイン名を指定する。	必須
-W	ログインパスワード	ログインパスワードを指定する。	必須
-J	ジョブID	強制終了する対象のジョブID (ASFALIS TransServerのDBに登録されているID) を指定する。	必須
-O	出力形式	処理結果の出力先を指定する。 CRT: 標準出力 FILE: 処理結果ファイル出力パスの指定に従う	省略した場合、FILEとして扱われる。
-P	処理結果ファイル出力パス	処理結果ファイルの出力パスを指定する。 指定パスがディレクトリの場合、指定パス\StopLog.outを出力ファイルとする。 指定パスがファイルの場合、指定パスをそのまま出力ファイルとする。	-I と併用不可 -O を省略、または -O に FILE を指定した場合、-I とどちらかが必須
-I	コマンド投入ID	本コマンドを実行する外部プログラムから渡される任意の識別子。	-P と併用不可 -O を省略、または -O に FILE を指定した場合、-P とどちらかが必須
-i	コマンド識別ID	本オプションを指定した場合、-NEXT でコマンドを接続する際、本オプションの指定値で修飾された置換変数だけが置換対象となる。	「3.6, “コマンド接続”」参照

- 出力形式

処理結果コードが出力されます。

(例)

```
${処理結果コード}
```

- 出力項目

項目名	形式	説明	コマンド接続時の置換変数名
処理結果コード	9999	処理結果コード一覧を参照。	ResultCode

- コマンド接続条件

処理結果コードが「コマンド正常終了」の他、「指定されたジョブは変換終了済み」の場合も後続コマンドを実行します。

## 3.5. JobDownload

ジョブの変換結果ファイルをダウンロードします。以下のようにバッチファイルを設定し実行します。

- (例)

```
JobDownload.exe -U ログイン名 -W パスワード -J ジョブID [-D ダウンロードパス] [-L ログダウンロード] [-Z ZIPアーカイブ] -O CRT
JobDownload.exe -U ログイン名 -W パスワード -J ジョブID [-D ダウンロードパス] [-L ログダウンロード] [-Z ZIPアーカイブ] [-O FILE] -P ディレクトリパス
```

- 入力オプション

修飾子	オプション名	説明	省略
-U	ログイン名	ログイン名を指定する。	必須
-W	ログインパスワード	ログインパスワードを指定する。	必須
-J	ジョブID	変換結果ファイルをダウンロードする対象のジョブID(ASFALIS TransServerのDBに登録されているID)を指定する。	必須
-D	ダウンロードパス	ダウンロード結果を配置するディレクトリパスを指定する。	省略時、iniファイルのSAVE DIRとして扱われる。
-B	ジョブ出力ファイルダウンロード	ジョブの出力ファイルとして定義されている変換結果をダウンロードするかどうか指定する。 0: ダウンロードしない 1: ダウンロードする	省略時、1:ダウンロードするとして扱われる。 (オペレーションのDownload権限が必要)
-L	ログダウンロード	ログファイルをダウンロードするかどうかを指定する。 0: ダウンロードしない 1: ダウンロードする	省略時、0:ダウンロードしないとして扱われる。 (オペレーションのEdit/Delete権限が必要)
-C	コンポーネント出力ファイルダウンロード	ジョブの出力ファイルとして定義されていないコンポーネントの変換結果ファイルをダウンロードするかどうか指定する。 0: ダウンロードしない 1: ダウンロードする	省略時、0:ダウンロードしないとして扱われる。 (オペレーションのEdit/Delete権限が必要)
-Z	ZIPアーカイブ	ダウンロード対象ファイル/ディレクトリを1つのZIPファイルに圧縮するかどうか指定する。 0: 圧縮しない 1: 圧縮する	省略時、0:圧縮しないとして扱われる。
-O	出力形式	処理結果の出力先を指定する。 CRT: 標準出力 FILE: 処理結果ファイル出力パスの指定に従う	省略した場合、FILEとして扱われる。

修飾子	オプション名	説明	省略
-P	処理結果ファイル出力パス	処理結果ファイルの出力パスを指定する。指定パスがディレクトリの場合、指定パス\DownloadLog.outを出力ファイルとする。指定パスがファイルの場合、指定パスをそのまま出力ファイルとする。	-I と併用不可 -O を省略、または -O に FILE を指定した場合、-I とどちらかが必須
-I	コマンド投入ID	本コマンドを実行する外部プログラムから渡される任意の識別子。	-P と併用不可 -O を省略、または -O に FILE を指定した場合、-P とどちらかが必須
-i	コマンド識別ID	本オプションを指定した場合、-NEXT でコマンドを接続する際、本オプションの指定値で修飾された置換変数だけが置換対象となる。	「3.6, “コマンド接続”」参照
-G	ダウンロード方法	DOWNDIR を経由せずに ASFALIS TransServer から直接ダウンロードするかどうか指定する。 0: DOWNDIR を利用する 1: 直接ダウンロードする	省略時、0:DOWNDIRを利用するとして扱われる。
-F	ダウンロードファイル名	-G 1 の時、ダウンロードするファイルのファイル名を指定する。	省略時、ASFALIS TransServer が指定するファイル名でダウンロードされる。

- 出力形式

処理結果コードが出力されます。

(例)

```
${処理結果コード}
```

- 出力項目

項目名	形式	説明	コマンド接続時の置換変数名
処理結果コード	9999	処理結果コード一覧を参照。	ResultCode
ダウンロードディレクトリ	-	処理結果コードが正常終了の場合、ダウンロードしたファイルの配置ディレクトリ (-D オプションの指定値、または job.ini の SAVEDIR) の絶対パスに置換する。	DownloadDir
ZIPファイル名	-	処理結果コードが正常終了で、ZIPファイルとしてダウンロードした場合、ZIPファイルのファイル名に置換する。	ZipFileName

- ダウンロード結果のディレクトリ階層について

ダウンロードカスタマイズ機能を使用すると変換結果ファイルの形式をZIPファイルとし、そのZIPファイル名を指定することができます。ダウンロードカスタマイズ機能を使用しない場合、またはダウンロードカスタマイズ機能で特にZIP形式を指定しない場合、圧縮要否オプション（-Z）によってZIPファイルまたは展開済みのファイルになるかが決まります。

圧縮要否オプション（-Z）を指定してZIPファイルを作成する場合、ファイル名はYYYYMMDD\_hhmmss.zip 形式になります。ダウンロードカスタマイズ機能でZIPファイル名を指定した場合には後者が優先されます。

ダウンロードカスタマイズ	-Z 0のときの結果ファイル	-Z 1のときの結果ファイル	パス
なし	展開される	YYYYMMDD_hhmmss.zip	*1
あり: ZIPを指定しない			カスタマイズされたパス
あり: ZIPを指定する	指定されたZIPファイル名		

\*1 のケース、またダウンロードカスタマイズの入力である既定のパスは下記の通りです。

J(ジョブID)\_(モデル名)/C(コンポーネントインスタンスの番号)\_(コンポーネントインスタンス名)/OUTPUT/(変換結果ファイル)

J(ジョブID)\_(モデル名)/C(コンポーネントインスタンスの番号)\_(コンポーネントインスタンス名)/OUTPUT/(中間ファイル) ([-C 1] オプションが指定されている場合のみ)

J(ジョブID)\_(モデル名)/C(コンポーネントインスタンスの番号)\_(コンポーネントインスタンス名)/LOG/(ログファイル) ([-L 1]オプションが指定されている場合のみ)

ZIPファイルを作成する場合にはZIPファイル内のパスが上記のものになります。ZIPファイルを作成しない場合にはダウンロードパス以下に上記のフォルダを作成して配置します。



## 3.6. コマンド接続

バッチ機能のコマンドを接続して実行します。以下のようにバッチファイルを設定し実行します。

- (例)

```
コマンド1 -NEXT コマンド2 -NEXT . . . -NEXT コマンドN
JobLotRegister.exe (中略) -NEXT JobEntry.exe -L ${JobLot[id]} (中略) -NEXT
JobState.exe -J ${Jobs[0][id]}
```

置換変数名が複数のコマンドで重複する場合、コマンド識別IDオプションと共に使用してください。  
\${コマンド識別ID:置換変数名}

- (例)

```
JobLotRegister.exe -i JL1 (中略) -NEXT JobEntry.exe -L ${JL1:JobLot[id]} (中略)
-NEXT JobLotRegister.exe -i JL2 (中略) -NEXT JobEntry.exe -L ${JL2:JobLot[id]}
(以下略)
```

-i オプションでコマンド識別IDを指定した時、置換変数名は上記書式で修飾してください。未修飾の置換変数は、置換対象外となります。

- (例)

```
JobLotRegister.exe -i JL1 (中略) -NEXT echo ${JobLot[id]}
```

上記の場合、オペレーションIDではなく "\${JobLot[id]}" が表示されます。

置換変数は、コマンドの1つの引数に複数個含めることが可能です。

- 入力オプション

修飾子	説明
-NEXT	コマンド1が正常終了したとき、コマンド2を続けて実行します。 コマンド1以降のコマンドには、コマンド1正常終了時にコマンド1の出力項目に置換される置換変数を指定できます。

- 出力形式

各コマンドの出力形式に従います。全てのコマンドで [-O CRT] オプションが指定されている場合、コマンドの実行順に処理結果が標準出力に出力されます。-NEXTに続くコマンドの実行に失敗した場合（標準エラー出力に出力があった場合）、正常終了したコマンドの処理結果出力先に、正常終了の処理結果に続けて以下の形式でエラー情報が追加出力されます。

(例)

```
--${処理結果コード},${エラー情報行数}  
${エラー情報}
```

(注意) コマンド接続には、ジョブの終了まで待つ機能はありません。

## 4. バッチ入力用XMLファイル形式

バッチ入力用XMLファイル形式は以下の通りです。

### 4.1. コンポーネントパラメータ型XMLファイル

階層	ノード名	説明	必須
1	parameters		-
2	parameter		○（複数可）
3	key_name		○
3	value_type		-
3	value	シナリオに設定された値を使用する場合、本項目を省略する。 空値を指定する場合、本項目を空要素にする。ファイル型属性に設定するファイルを指定する場合、-r オプションで指定した識別子を \${識別子} の形式で指定する。	-
3	file_server_id	(ディレクトリ選択型パラメータのみ) 対象ディレクトリを所有するファイルサーバの ID を指定する。	-
3	directory_path	(ディレクトリ選択型パラメータのみ) 対象ディレクトリへの相対パスを指定する。	-
3	multiple_values		-
4	value		○（複数可）
-	/multiple_values	(終了タグ)	-
-	/parameter	(終了タグ)	-
-	/parameters	(終了タグ)	-

## 4.2. オペレーション登録XMLファイル

階層	ノード名	説明	必須
1	job_lot_register_request		-
2	job_lot_template		○ *1
3	id	業務種別のID	○ *1
-	/job_lot_template	(終了タグ)	-
2	job_lot		○ *1
3	name	オペレーションの名前	○ *1
3	unique_alias		-
-	/job_lot	(終了タグ)	-
2	job_lot_properties		-
3	job_lot_property		○ (複数可)
4	key_name		○
4	value_type	指定した型に応じて、値に設定された情報の変換を行う。 date: 日付型 (UTCに変換) datetime: 日時型 (UTCに変換) file: ファイル型(ファイルを共有ディレクトリにアップロードし、共有ディレクトリからの相対パスに変換)	-
4	value	オペレーション属性値を指定する。 オペレーション属性定義に設定された値を使用する場合、本項目を省略する。空値を指定する場合、本項目を空要素にする。 日付型属性の値は YYYY-MM-DDZ 形式で指定する。 日時型属性の値は YYYY-MM-DDThh:mm:ssZ 形式で指定する。 ファイル型属性に設定するファイルを指定する場合、ローカルディスク上のファイルパスを指定する。	-
-	/job_lot_property	(終了タグ)	-
-	/job_lot_properties	(終了タグ)	-
2	job_lot_permissions		-
3	permission		○ (複数可)
4	permission_code	付与する権限を指定する。 1.参照 / 2.ダウンロード / 3.更新削除	○
4	login_name	ユーザに権限を付与する場合に本項目を指定する。	- (複数可)

階層	ノード名	説明	必須
4	group_id	グループに権限を付与する場合、かつグループIDで対象を識別する場合に本項目を指定する。	- (複数可)
4	group_internal_name	グループに権限を付与する場合、かつグループ識別名(internal_name)で対象を識別する場合に本項目を指定する。	- (複数可)
-	/permission	(終了タグ)	-
-	/job_lot_permissions	(終了タグ)	-
-	/job_lot_registration	(終了タグ)	-

\*1: 他のバッチオプションで指定している場合は、指定は必須ではありません。  
(サンプル)「6.1オペレーション登録XMLファイル」をご参照ください。

## 4.3. ジョブ投入XMLファイル

階層	ノード名	説明	必須
1	job_entry_request		-
2	file_type	0: Part / 1: Assy	○ *1
2	file_server_id		-
2	file_server_dir	ファイルサーバIDで指定したファイルサーバの、入力ファイルが配置されているディレクトリを相対パスで指定する。	-
2	via_updir	1: true / 0: false	-
2	input_files		○ *1
3	input_file		- (複数可)
4	input_file_path	<p>■ファイルサーバIDを指定した場合 ファイル名のみを指定する。(パスはファイルサーバディレクトリで指定)</p> <p>■アップロード用Windows共有ディレクトリ使用フラグを指定した場合 バッチ実行コンピュータのローカルディスク上のファイルの絶対パスを指定する。</p>	○
4	top_assy	ファイルサーバIDを指定した場合、かつ変換タイプが 1:Assy のときトップアセンブリに指定するファイルに対して 1 を指定する。	-
-	/input_file	(終了タグ)	-
-	/input_files	(終了タグ)	-
2	job_lot_id	投入先オペレーションIDを指定する。	○ *1
2	src_job_id	既存ジョブを参照する場合、そのIDを指定する。	-
2	scenario_id	シナリオのIDを指定する。	-
2	components		-
3	component		○ (複数可)
4	name	コンポーネント名を指定する。	○
4	parameters	コンポーネントパラメータ型のXMLで指定する。コンポーネントパラメータ型XMLの書式は4.1, “コンポーネントパラメータ型XMLファイル”を参照のこと。	-
4	sub_components		-
5	sub_component		○ (複数可)
6	name		○
6	parameters		-

階層	ノード名	説明	必須
-	/sub_component	(終了タグ)	-
-	/sub_components	(終了タグ)	-
-	/component	(終了タグ)	-
-	/components	(終了タグ)	-
2	job_option	ジョブオプション	-
3	priority	優先度	-
3	is_nightly	1: true / 0: false	-
3	description		-
-	/job_option	(終了タグ)	-
-	/job_entry	(終了タグ)	-

\*1: 他のバッチオプションで指定している場合は、指定は必須ではありません。

(サンプル)「[6.2, “ジョブ投入XMLファイル”](#)」をご参照ください。

## 5. 処理結果コード一覧

結果コードと主なプログラムの対応は下記の通りです。

- 3000台： バッチ共通
- 4000台： ASFALIS TransServer共通
- 4100台： ASFALIS TransServer - JobLotRegister
- 4200台： ASFALIS TransServer - JobEntry
- 4300台： ASFALIS TransServer - JobState
- 4400台： ASFALIS TransServer - JobDownload
- 4500台： ASFALIS TransServer - JobStop

コード	説明	備考
0000	コマンド正常終了	
0001	コマンドオプション不正	必須項目が設定されていない 設定値の書式不正
0002	ファイルエラー（対象が存在しない、 ファイルに異常ある等）	アップロード対象ファイル、XMLファイルエ ラー
0003	リモートファイルエラー（対象が存在 しない、ファイルに異常ある等）	ダウンロード対象ファイルエラー
0004	ファイル転送エラー	
0005	転送先ディレクトリ作成エラー	アップロード/ダウンロード用のWindows共 有ディレクトリ配下へのサブディレクトリ作 成失敗
0007	存在しないユーザが設定されている ユーザ/グループが見つからない	
0008	存在しないジョブパターン ID が設定されている シナリオが見つからない	
0009	ライセンスエラー	APIライセンスが存在しない
0011	ジョブが見つからない	
0012	ini ファイルが見つからない、ini ファイル内に必要な値が無い	job.iniが見つからない 必須項目が指定されていない 指定した値の書式が誤っている
0013	指定されたジョブは処理中	ダウンロード可能なコンポーネントがない 終了ステータスになっているコンポーネント がない
0014	指定されたジョブ、ジョブセットは変 換終了済み	
0024	ジョブパターン権限エラー	
0028	投入ファイル名禁則文字エラー	ファイル名がsystem.filename.invalid_patte rnにマッチする場合にエラー
0999	その他想定外のエラー	



コード	説明	備考
3001	XML検証エラー	XML文書構造が不正
3002	リクエスト情報不備	必須項目が指定されていない 指定した値の書式が不正
3003	ファイル名禁則文字エラー	Windowsで使えない文字を含む、または使えない名前の場合にエラー
3004	文字コード変換エラー	
3005	サーバ接続エラー	リクエスト先が見つからない
3006	サーバ通信タイムアウト	
3007	サーバ通信エラー	
3008	ローカルディレクトリ作成エラー	
3009	XMLスキーマ読み込みエラー	XML検証に用いるXMLスキーマ定義ファイルが見つからない、定義内容が適切でない、その他IO例外
3501	後続コマンド起動エラー	シェル(cmd.exe)を利用したコマンドの起動に失敗する 実行ファイルがパス上に存在しない
3502	後続コマンド実行中エラー	コマンドの実行中に例外が発生
3503	後続コマンド標準エラー出力	コマンド終了後、標準エラー出力への出力が存在している
4001	リクエスト不正	必須項目が設定されていない、設定値の書式不正 (最大長等含む)
4002	ファイルエラー (対象が存在しない、ファイルに異常ある等)	アップロード対象ファイル、XMLファイルエラー
4003	リモートファイルエラー (対象が存在しない、ファイルに異常ある等)	ダウンロード対象ファイルエラー
4004	ファイル転送エラー	
4005	転送先ディレクトリ作成エラー	アップロード/ダウンロード用のWindows共有ディレクトリ配下へのサブディレクトリ作成失敗
4006	ログイン名またはパスワードが正しくない	
4007	ログイン無効ユーザ	
4008	セッション無効	
4009	アップロード用Windows共有ディレクトリ未登録	ServerConfigurationへの設定不足 FileServerへの設定不足
4010	ダウンロード用Windows共有ディレクトリ未登録	ServerConfigurationへの設定不足 FileServerへの設定不足

コード	説明	備考
4011	権限エラー(ユーザ/グループ対象権限)	[JobLotRegister] ユーザ・グループに対するオペレーション権限付与権限がない (Read, PermitDownload) [共通] UserAdminに所属するユーザでの実行が必要
4012	権限エラー(オペレーション対象権限)	[JobEntry] オペレーションにジョブを投入できない (Edit/Delete) ジョブの設定を参照できない (Read) [JobState] ジョブのステータスを参照できない (Read) [JobDownload] ジョブの出力ファイルをダウンロードできない (Download) ジョブのログファイルをダウンロードできない (Edit/Delete) ジョブの中間ファイルをダウンロードできない (Edit/Delete) [JobStop] ジョブを強制終了できない (Edit/Delete) [共通] JobAdminsグループに属していないユーザが削除されたジョブを指定している
4013	権限エラー(シナリオ対象権限)	[JobEntry] ジョブ投入にシナリオを使用できない
4014	権限エラー(業務種別対象権限)	[JobLotRegister] 業務種別からオペレーションを作成する権限がない
4017	オペレーションが見つからない	
4018	業務種別が見つからない	
4019	ファイルサーバが見つからない	
4020	文字コード変換エラー	ダウンロード対象のファイルの絶対パス中にダウンロード用の Windows 共有フォルダの文字コードへ変換できない文字が含まれる
4021	許可されていないIPアドレスからのアクセス	[サーバ設定]のbatch.client.addressに定義されていないIPアドレスからのリクエストを受信した場合
4022	ハードリミット制約エラー(空き容量不足)	リソースフォルダが属するボリュームの空き容量が[サーバ設定]のsystem.resource.hard_limit.size以下、または共有フォルダが属するボリュームの空き容量が[サーバ設定]のsystem.shared_directory.hard_limit.size以下になった場合
4101	オペレーション作成が禁止されている業務種別(デフォルト)	
4102	オペレーション属性定義が見つからない	
4103	オペレーション属性定義の選択肢が見つからない	
4104	オペレーション属性定義が編集不可	

コード	説明	備考
4109	オペレーション名が重複している	
4110	オペレーション識別名が重複している	
4111	オペレーション属性の制約違反	
4201	投入先オペレーションで使用できないシナリオ	
4202	コンポーネントが見つからない	
4203	コンポーネントパラメータが見つからない	
4204	コンポーネントパラメータの選択肢が見つからない	
4205	コンポーネントパラメータが編集不可	
4206	コンポーネントパラメータの制約違反	
4207	投入ファイル形式エラー	シナリオが入力として受け付けるファイル形式と、投入ファイルの形式が異なる 入力ファイルが必要なシナリオに、投入ファイルが指定されていない 入力ファイルがないシナリオに、投入ファイルが指定されている
4208	投入ファイル形式エラー(ファイルサーバ)	ファイルサーバ上のZIPファイルが指定されている
4209	ジョブ登録後処理コールバックエラー	ジョブ登録後に設定されたコールバックURLへのリクエストに対して応答がない
4210	ファイルセットが見つからない	指定したファイルセットIDのファイルセットが見つからない
4211	ファイルセットID検証用コードが一致しない	指定した検証用コードとファイルセットの検証用コードが一致しない
4300	取得件数上限超過	JobState でジョブID省略時、ログインユーザの登録ジョブ数が ASFALIS TransServer で規定するジョブ取得上限数を超過している
4402	ダウンロード可能なファイルがない	終了ステータスであるが、ダウンロード可能なファイルがない
4403	ファイルが削除されている	終了ステータスであり、ダウンロード可能なファイルが定義されているが、ファイルの実体が削除されている
4410	ジョブダウンロードは成功したが出力ファイルが "DOWNDIR" 上に見つからない	"job.ini" 内の "DOWNDIR" の設定が誤っている可能性がある
4502	指定されたジョブは削除済み	JobAdminsグループに属するユーザで実行した 上記以外の場合、権限エラー(オペレーション対象権限)となる
4601	オペレーション属性が見つからない	指定したオペレーションIDと属性のキーの組み合わせが誤っている

コード	説明	備考
4602	オペレーション属性がファイル型でない	
4999	サーバエラー	

## 6. サンプル

### 6.1. オペレーション登録XMLファイル

```
<?xml version="1.0"?>
<job_lot_register_request xmlns="Elysium.K2"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <job_lot_template>
    <id>1</id>
  </job_lot_template>
  <job_lot>
    <name>持出申請22</name>
    <unique_alias></unique_alias>
  </job_lot>
  <job_lot_properties>
    <job_lot_property>
      <key_name>number_key</key_name>
      <value>12345</value>
    </job_lot_property>
    <job_lot_property>
      <key_name>file_key</key_name>
      <value_type>file</value_type>
      <value>C:\path\to\file1.txt</value>
    </job_lot_property>
  </job_lot_properties>
  <job_lot_permissions>
    <permission>
      <permission_code>1</permission_code>
      <group_internal_name>NamedUsers</group_internal_name>
    </permission>
    <permission>
      <permission_code>2</permission_code>
      <group_id>10</group_id>
    </permission>
    <permission>
      <permission_code>3</permission_code>
      <login_name>admin</login_name>
    </permission>
  </job_lot_permissions>
</job_lot_register_request>
```

### 6.2. ジョブ投入XMLファイル

```
<?xml version="1.0"?>
<job_entry_request xmlns="Elysium.K2" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-
instance">
  <file_type>1</file_type>
  <via_updir>1</via_updir>
  <input_files>
    <input_file>
      <input_file_path>C:\path\to\model\wheel_set_nx.zip</input_file_path>
    </input_file>
  </input_files>
  <job_lot_id>13</job_lot_id>
  <scenario_id>7</scenario_id>
  <components>
    <component>
      <name>simplify</name>
      <parameters>
        <parameter>
          <key_name>CANVASVersion</key_name>
          <value>1</value>
        </parameter>
      </parameters>
      <sub_components>
        <sub_component>
          <name>simplify_mergeface</name>
          <parameters>
            <parameter>
              <key_name>MergeIsoparaCurveTolerance</key_name>
              <value>3</value>
            </parameter>
          </parameters>
        </sub_component>
      </sub_components>
    </component>
  </components>
  <job_option>
    <!-- 優先度 -->
    <priority>1</priority>
    <!-- 夜間フラグ 1:ON / 0:OFF -->
    <is_nightly>0</is_nightly>
    <!-- メモ -->
    <description>サブコンポーネントへの値指定</description>
  </job_option>
</job_entry_request>
```

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。  
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの  
行為をすることは禁じられています。